



じですよね。

確かに、僕たちが学生時代や卒業直後は歯ブラシの圧力が強いと歯が削れるなんて言われていました。しかし、根拠なんて示されていませんでした。とにかく、歯の根元付近が削れている人(右写真)は歯ブラシの仕方が悪いとだけ教えられました。しかし、卒業して自分で診療するようになってすぐに分かりました。そんなの嘘っぱちだと。だって、歯ぐきより下、歯ブラシが当たらないと

そんなことにその方は「磨き残しがあつて歯槽膿漏になつている」とまで言われたそうです。じゃあ、どうすればいいですか？って感

ころにも同じように歯が削れている人がいっぱいいたんです。つまり、歯ブラシ以外の因子で歯が削れるんだと(噛み合わせによつて起こる)。それが二十年ほど前。今では専門誌にも歯が削れるのは歯ブラシの因子ではないことが書かれています。先日は「ためしてガッテン」でも歯ブラシで歯は削れないなんて言つていましたね。もしかしたら皆さんの方が正しい知識を持つているかもしれません。

では、なぜ「歯ブラシのしすぎで歯が削れる」なんて言う歯医者や歯科衛生士さんが未だにいたのでしょうか。実は「常識」の怖さなんです。僕たちは初めて歯科教育を受けたときからそう言われてきたんです。だからこそ多くの人が信じているし、疑おうともしない。逆に、疑ったり、反

論したりすると白い目で見られる。これが常識の怖さです。

そう考えると世の中で常識とされていることでおかしなことがいっぱいありませんか？

体調が悪い方が行く病院なのに五時間待たされたり、多くの高齢者が十種類以上の薬を処方されていたり、風邪で病院に行ったりとか(風邪は自分で治すのが世界の常識!)。これらのことは日本だけの常識なんです。医療以外にも不思議な常識は社会にいっぱいあります。

当たり前と思つていたら社会は変わりません。まずはしっかりと考えてみて、常識も本当に正しいのか疑つてみないといけませんね。

